

ピレリスーパー耐久シリーズ 2020  
第5戦 TKU スーパー耐久レース in オートポリス

TKRI 松永建設 AMG GT4  
DAISUKE / 元嶋佑弥 / 森山鉄也 / ハマダタカアキ

2020年12月12日(土)~12月13日(日)  
オートポリス(大分県)  
入場者数: 12月12日 2,000人  
12月13日 3,050人



惜しくも奮闘実らず  
好レースを展開も5位でフィニッシュ

FREE PRACTICE

前戦もてぎでは、初表彰台を目前にしながらかも追突され、悔しい結果に終わったTKRI (TK Racing Invitation)。今度こそDAISUKE、元嶋佑弥、森山鉄也、ハマダタカアキという4人で表彰台を掴み取る……。そんな決意で臨んだ第5戦の舞台は、大分県日田市のオートポリスだ。

12月ともあり厳しい寒さのなか、TKRIは12月10日に2本行われた特別スポーツ走行から走り込みをスタートさせた。まず1本目はDAISUKEと元嶋がドライブし、元嶋が1分58秒406をマーク。2本目はDAISUKE、元嶋、そしてハマダも

コクピットへ。元嶋が1分56秒391というベストタイムをマークした。

12月10日は午後3時から専有走行がスタートしたが、ここでTKRI松永建設AMG GT4は今回も3人でドライブし、まず4番手につける。明けて12月11日(金)は午前9時15分から専有走行がスタートしたが、ここではふたたびDAISUKEと元嶋が走行。全クラス混走となった午後の2時間のセッションでは、いよいよ森山も加わり、4人でラップを重ねることに。仕上がりは順調だが、今回はライバルたちも速さがありそうだ。



12/10 STEL 専有走行1回目 ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	Time
1	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	1'56.013
2	3	ENDLESS AMG GT4	1'57.006
3	47	D'station Vantage GT4	1'57.204
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	1'57.305
5	500	5ZIGEN AMG GT4	1'57.558

12/11 STEL 専有走行2回目 ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	Time
1	500	5ZIGEN AMG GT4	1'56.355
2	47	D'station Vantage GT4	1'56.568
3	3	ENDLESS AMG GT4	1'56.735
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	1'57.608
5	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	1'57.800

12/11 STEL 専有走行3回目 ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	Time
1	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	1'55.610
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	1'56.098
3	47	D'station Vantage GT4	1'56.502
4	3	ENDLESS AMG GT4	1'57.635
5	19	BRP★SUNRISE-Blvd718GT4MR	1'58.283



## QUALIFY

12月12日(土)の予選日は、午前8時20分からフリー走行が行われ、元嶋とDAISUKEがドライブ。続く午前10時からのAドライバー予選では、まずはDAISUKEがアタックし、4周目に1分57秒973をマークしてみせた。コースレコードを更新するタイムで、ピットも驚くほどの好記録ではあったが、今回はライバルも速く、6番手となった。

続くBドライバー予選では、今度は元嶋が乗り込みアタックを展開する。果敢なアタックをみせた元嶋は、1分55秒372をマークしクラス2番手へ。結果的にTKRI松永建設AMG GT4は合算でクラス5番手という位置で予選を終えることになった。続くCドライバー予選では森山が、Dドライバー予選ではハマダが周回をこなし予選日を締めくくった。



第5戦オートボリス 12/12 Gr-1 フリー走行 ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	Time
1	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	1'56.811
2	47	D'station Vantage GT4	1'57.405
3	20	SS/YZ Studie BMW	1'58.909
4	19	BRP★SUNRISE-Blvd718GT4MR	1'58.952
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	1'59.038

第5戦オートボリス 12/21 Gr-1 公式予選 ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	A Driver	B Driver	Combined
1	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	1'55.940	1'54.324	3'50.364
2	47	D'station Vantage GT4	1'56.978	1'55.549	3'52.527
3	500	5ZIGEN AMG GT4	1'56.550	1'55.996	3'52.546
4	3	ENDLESS AMG GT4	1'57.112	1'55.929	3'53.041
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	1'57.973	1'55.372	3'53.345

## RACE



明けて12月13日(日)のオートボリスは、朝から晴天。非常に気温は低いなかで、午前8時からウォームアップ走行が行われた。TKRI松永建設AMG GT4はこのセッションを使い、DAISUKEとハマダタカアキがドライブ。決勝に向け準備を整えた。

気温も上がりはじめた午前10時45分からの決勝レースは、気温が低いことからエクストラの2周を含めた3週のフォーメーションラップを経て、午前10時45分にスタートが切られた。TKRI松永建設AMG GT4はいつもどおり元嶋がスタートドライバーを務めたが、今回も序盤から元嶋が魅せる。1周目、はやくも3番手に順位を上げると、トップ争いを展開する#2 KTM、#47 アストンマー

ティンの後方につけ、4番手以下との差を広げていった。

混戦のなか、まず元嶋は41周まで自らの仕事を完遂するとピットイン。今度はDAISUKEに交代した。このスティントでは速いジェントルマンが多くライバル車に乗り込んでおり、DAISUKEにとっても勝負どころ。#3メルセデス、#500メルセデスに先行は許してしまったものの、ペナルティストップで順位を落としていた#47アストンマーティンの星野辰也選手と一歩も引かないバトルを展開。67周目にはギリギリまで粘りをみせ順位を落としたが、それでも大きなタイムロスをしないう走りを見せた。そしてこのスティントが、後半戦に繋がっていく。

DAISUKEは71周までステアリングを握りピットイン。ふたたび元嶋にステアリングを委ねた。コースに戻った元嶋には、ペナルティを受けた#47アストンマーティンがふたたび接近してきた。前戦もてぎでも同様のシーンがあり、その際には元嶋が好バトルをみせたが、今回は#47アストンマーティンに地力があり、90周目に先行を許してしまった。

しかしそんななか、今回最もスピード

があった#2 KTMが96周目にコースオフを喫し、大きくタイムロスを喫してしまった。これでTKRI松永建設AMG GT4は3番手に浮上する。いよいよ前戦逃した表彰台圏内が見えてきた。

元嶋は117周までラップを重ね、残り54分でピットインし、最後のスティントをハマダに委ねた。4番手の#2 KTMとのギャップを守るかが勝負となったが、プロが駆る#2 KTMのペースは速く、129周目にハマダは逆転を許してしまい、さらに同様にプロが乗る#500にも先行を許したTKRI松永建設AMG GT4は5位でチェッカーを受けた。

悔しさも残るが、チーム一丸となった結果だ。表彰台へのチャレンジは、最終戦の鈴鹿に持ち越しとなった。



## DRIVER'S VOICE

### DAISUKE

「今回はたくさん走行時間があり、自分のスキルアップとしては本当に良い週末になりましたし、我々ジェントルマンドライバーにとっては、この寒い時季でのタイヤのピックアップ対策が結果に表れていると感じました。またロングランを練習する機会が少ないので、トラフィックの処理などもレースでは非常に大きいので、できる限り自分のスキルアップができたのではないかと考えています。レースとしては自分のステントで30分近くバトルをして、速いクルマと戦えて楽しめましたし、経験値を積むことができました。次回に向けて良い経験ができたのではないのでしょうか」



### 元嶋佑弥 YUYA MOTOJIMA

「クルマも速かったですし、僕としては頭を使いレースを戦うことができ、良い経験を積むことができました。最終ステントではハマダさんがとんでもないプレッシャーのなかでステアリングを握ることになりましたが、ミスなく走りきってくれたので良かったです。表彰台になんとか手が届くかな……とは思いましたが、全体的には良いレースになったのではないのでしょうか。もちろん僕ももっとギャップを作ることができれば皆さん楽になったと思いますし、スピードをつけて、ジェントルマンの皆さんにマージンを作れるよう、もっともっと努力していきたいと思っています」



### 森山鉄也 TETSUYA MORIYAMA

「今回のレースでは自分はステアリングを握りませんでしたが、自分自身もオートボリスが初めての経験でもあるので、走行を重ねることができて良い勉強ができたのではないかと思います。チームとしても序盤からすごく良いレースができていて、残念ながら表彰台にこそ届きませんでしたが、みんなで戦い抜くことができたのではないのでしょうか。次戦は鈴鹿になりますが、そこでもドライブする予定なので、良いレースにできるよう頑張っていきたいと思っています」



### ハマダタカアキ TAKAAKI HAMADA

「決勝レースでは最終ステントを担当しましたが、ピットインのタイミングがあったとはいえトップでステアリングを受け継ぐことになりました。しかし結果的には5位になってしまいました……。自分のテクニックのなさに反省しているところです。やっぱりプロはすごいなと思いました！ もっと練習します！ 以上です（苦笑）！」



第5戦オートボリス 12/13 決勝レース ST-Z 結果

Pos.	No.	Car Name	Driver	Laps	Time
1	3	ENDLESS AMG GT4	内田 優大 / 山内 英輝 / 高橋 翼 / 菅波 冬悟	145	5:02'09.653
2	47	D'station Vantage GT4	星野 辰也 / 織戸 学 / 篠原 拓朗 / 浜 健二	145	5:02'34.458
3	2	ケーズフロンティア SYNTIUM KTM	飯田 太陽 / 高橋 一穂 / 加藤 寛規	144	5:02'02.004
4	500	5ZIGEN AMG GT4	大塚隆一郎 / 青木 孝行 / 坂本 祐也	144	5:02'31.074
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	DAISUKE / 元嶋 佑弥 / 森山 鉄也 / ハマダタカアキ	144	5:02'57.752